

# スマートシティ伊勢推進構想1.0

## 事務局案(R051025版)

人と人がデジタルでつながる  
～People Connected by Digital～



令和 6 年 3 月

## スマートシティ伊勢推進構想の策定にあたって

伊勢市は、神宮林や清流宮川などの豊かな自然に恵まれており、古くから神宮が鎮座するまちとして栄えてまいりました。さらに、先人たちが守り続けてきた自然や伝統、神宮を訪れる旅人をもてなす文化が根付くまちでもあり、今も全国各地から多くの方が伊勢を訪れ、賑わっています。

一方で、全国的に人口減少・少子高齢化が叫ばれている中、伊勢市も例外ではなく、各分野で労働力不足に直面しているなど、様々な地域課題を抱えています。

そこで、わたしたちは、産官学民が連携して、デジタル技術を活用したデジタル変革(デジタルトランスフォーメーション)により、サービスの向上、組織運営の効率化及び地域課題の解決を行うスマートシティの実現に向けて取り組むことを決意しました。

そのためには、人と人がデジタルでつながることが重要です。デジタル技術は、単に便利なツールとしてだけではなく、人間の価値観や行動を変える力があります。デジタル技術を活用することで、市民や事業者、行政などが互いに情報や知識を共有し、協働して新たな価値を創造することができます。

伊勢市は、神宮ご鎮座のまちとして、日本の伝統や文化を発信するとともに、デジタル技術を活用して、地域課題に挑戦し、新たな価値を創造するまちとして、スマートシティを実現していきたいと考えています。

スマートシティ伊勢推進構想は、伊勢市の未来を描く大切なビジョンです。

このビジョンを実現するためには、市民や事業者、行政などが一体となって取り組むことが必要ですので、ご理解・ご協力よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、スマートシティ伊勢推進構想の策定にあたっては、多くの方々からご意見やご提案をいただきました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。今後も皆様からのご意見やご要望をお聞かせください。よろしくお願いいたします。

## I 策定の背景・趣旨

- (1) 伊勢市を取り巻く状況と抱える課題
- (2) 策定の趣旨
- (3) 伊勢市がこれまでに取り組んできたこと

## II 構想の位置付け

## III 他の計画との関係と構想の期間

## IV 基本理念、基本原則

- (1) 基本的な考え方 ～スマートシティ伊勢で実現していく姿～
- (2) スマートシティ伊勢を実現する上での3つの基本理念
- (3) スマートシティ伊勢の運営5原則

## V 取組の方向性

## VI 既に実施している取組

## VII 推進体制

## VIII 今後の進め方・ロードマップ

## 参考 I 策定経過

## 参考 II 行政がこれまでに取り組んできた主な取組

## 参考 III 用語解説

## (1) 伊勢市を取り巻く状況と抱える課題

第3次伊勢市総合計画 中期基本計画では、8つの分野横断課題の一つとして、「デジタル技術の活用」を掲げており、伊勢市の現状と課題及び取組方針について、以下のように示しています。

### 【現況・課題】

デジタル技術の急速な進歩や、多様・大量なデータ流通の進展に伴い、国は誰もがデジタル技術やデータによる恩恵を受けられる社会の形成を推進しています。また、新型コロナウイルス感染症の影響によるニーズの多様化やデジタル庁の設置等を受け、社会全体でデジタル化の動きは加速しています。

本市においても、新型コロナウイルス感染症によりデジタル化の遅れが顕在化したことに加え、人口減少や少子高齢化の進行に伴う人的資源の不足等、さまざまな課題を抱えています。

限られた資源で、市民サービスの向上や効率的な組織運営、地域課題の解決に取り組むには、地域全体でのデジタル化を推進する必要があります。

### 【取組方針】

デジタルの活用による暮らしやすいまちづくりを進めるため、行政においては、市民目線での利便性向上やデジタルデバイドへの配慮、デジタル技術を活用した行政サービスの提供やデジタル環境の整備、内部事務のデジタル化、デジタルを活用できる職員の育成等に取り組むと同時に、地域においても、産官学民が連携して教育・福祉・産業分野等における地域課題の解決等に取り組み、地域全体でのスマートシティ化を進めていきます。

【第3次 伊勢市総合計画 中期基本計画より抜粋】

## (2) 策定の趣旨

「(1) 伊勢市を取り巻く状況と抱える課題」で示した課題を解決するため、地域全体のデジタル化を進めるにあたっては、まずは行政が率先して取り組むことで地域の見本となれるよう、行政内部における推進体制の整備や推進計画の策定を進め、全庁的にデジタル技術を活用した個別施策に取り組む環境を整えることで、市民サービスの向上や、行政運営の効率化を図ってきました。

また、地域全体のデジタル化を進めるため、産官学民が連携して取り組んでいくための場として、市内の様々な分野の団体が参画する「スマートシティ伊勢推進協議会」を設立し、それぞれの個別分野における取組を進めるための体制整備や、実証事業を行ってきました。

これまでは個別分野ごとの取組を進めてきましたが、今後、スマートシティの実現に向けて分野を横断した課題の解決に取り組むにあたっては、地域が一体となって実現していく共通の姿を示すことが必要であることから、この度、「スマートシティ伊勢推進構想」を策定しました。

なお、本構想の期間としては、デジタル技術の進歩が急速であることから、当初4年間を目途にしながらも、都度バージョンアップを行っていきます。

### (3) 伊勢市がこれまでに取り組んできたこと

伊勢市では、行政のデジタル化を進めるため、これまでに以下のことに取り組んできました。

- 市長を本部長とする「伊勢市デジタル行政推進本部」の設置
- 全庁的にデジタル化を進めるための計画である「伊勢市デジタル行政推進ビジョン」の策定
- 紙による手続きを原則としていた行政手続きをオンライン化するための条例の制定及び汎用的なオンライン申請システムの導入
- 細やかな情報発信や様々な問い合わせへの自動案内を行うための伊勢市LINE公式アカウントの運用
- 多くの市民が訪れる窓口へのキャッシュレス決済対応システムの導入
- デジタルデバイド解消のための高齢者向けスマートフォン教室の開催
- 業務効率化を図るための生成AIの活用及びAI-OCRやRPAの導入
- 意思伝達、決定の迅速化を図るための電子決裁の原則化 など

それぞれの取組に関する詳細については、巻末の参考Ⅱ「伊勢市がこれまでに取り組んできた主な取組」にて紹介しています。

# 本推進構想の位置付け

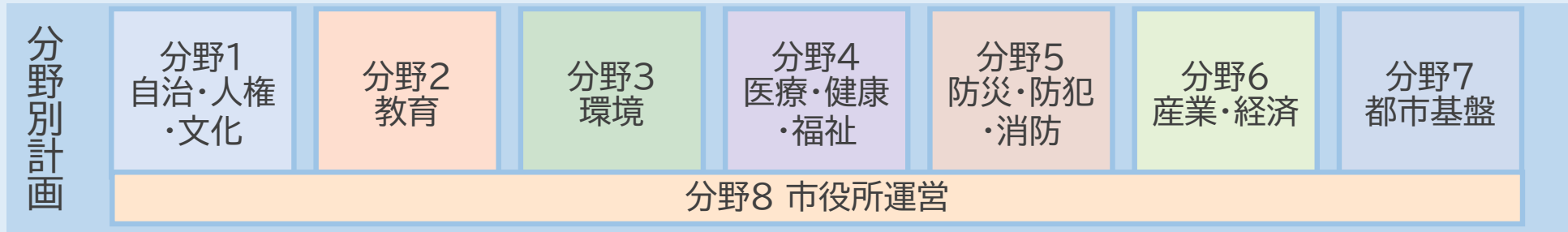
伊勢市の最上位計画である「第3次 伊勢市総合計画」の基本構想に掲げる、まちの将来像「つながりが誇りと安らぎを育む 魅力創造都市 伊勢」を実現するため、地域が一体となって分野横断課題の一つである「デジタル技術の活用」を進め、スマートシティ伊勢を実現していくための指針として位置付けます。

**第3次 伊勢市総合計画 基本構想**  
まちの将来像「つながりが誇りと安らぎを育む 魅力創造都市 伊勢」

## 第3次伊勢市総合計画(中期基本計画)

取組方針 「子どもたちの笑顔があふれ(笑子)、幸せに年齢を重ねられる(幸齢)まちづくり」  
～笑子・幸齢化のまちづくり～

### 分野横断課題 ⑤デジタル技術の活用



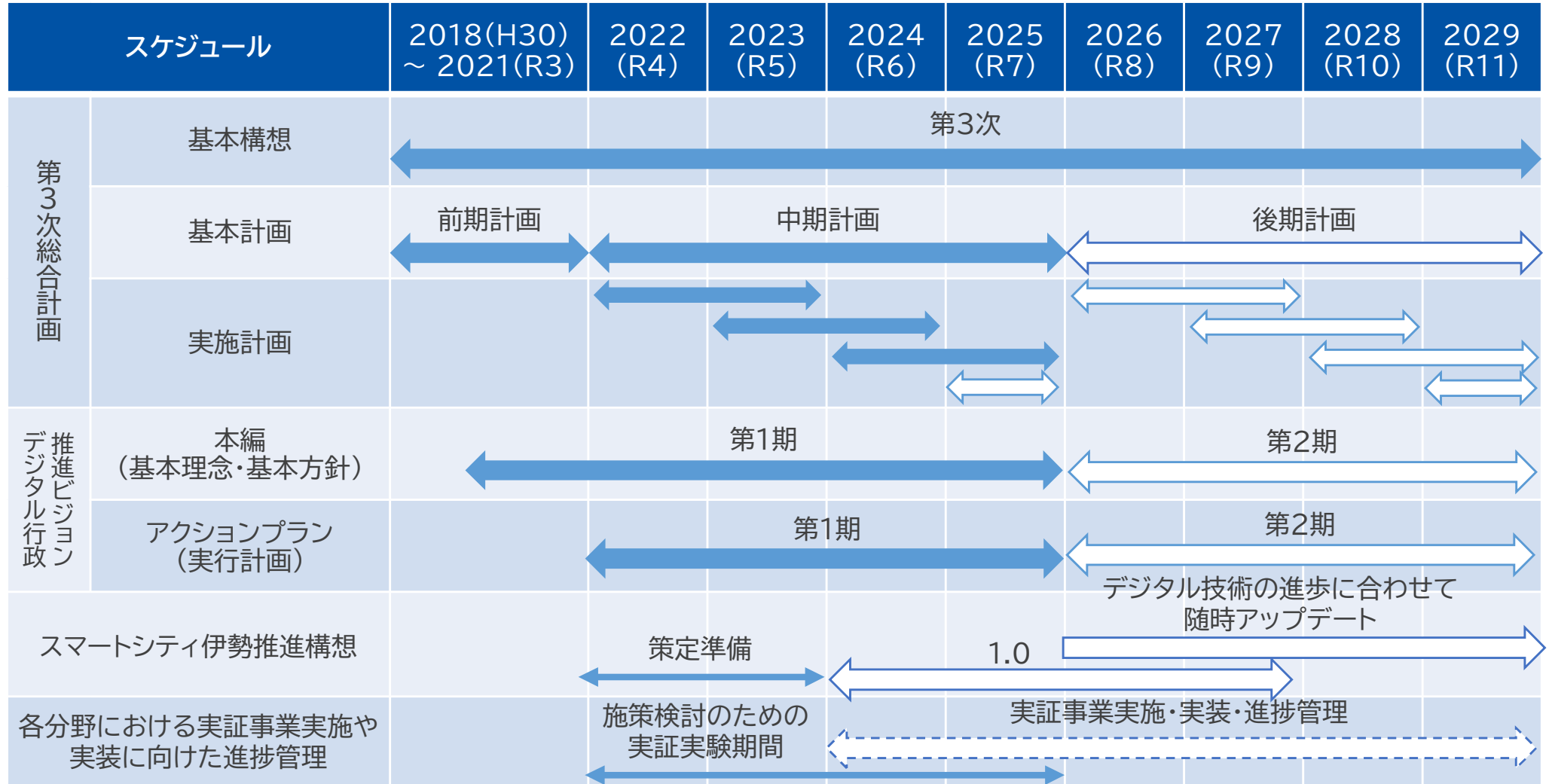
**スマートシティ推進構想1.0**  
地域が一体となって分野を横断した課題を解決するスマートシティを推進するための指針



### Ⅲ. 他の計画との関係と構想の期間

#### 関連計画との関係と本構想の期間

本構想の期間は、当初は4年を目途にし、その後はデジタル技術の進歩に合わせて、アップデートを図ってまいります。





# IV 基本理念、基本原則

## (1) 基本的な考え方 ~スマートシティ伊勢で実現していく姿~

ミッション  
(使命)

デジタル技術を活用し、地域課題の解決を進めることで、「つながりが誇りと安らぎを育む 魅力創造都市 伊勢」の実現を図る

ビジョン  
(将来像)

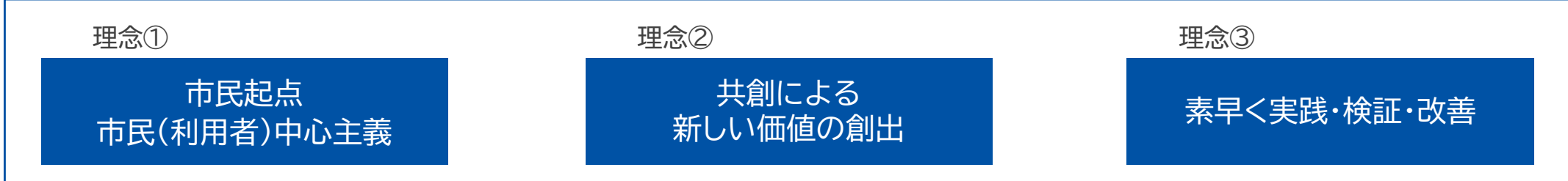
人と人がデジタルでつながる ~People Connected by Digital~

### スマートシティ伊勢

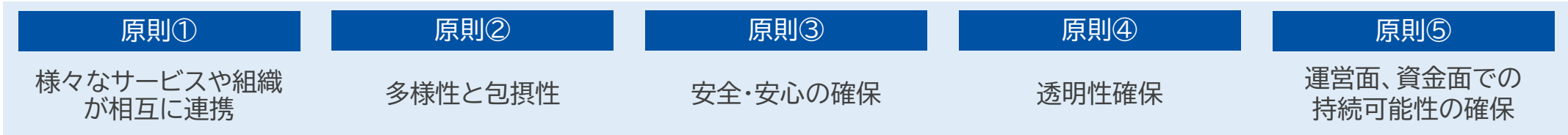
全体の方向性

- ・デジタル技術を活用した市民生活の質の向上
- ・デジタル技術を活用したサービスの向上、組織運営の効率化
- ・デジタル技術を活用し地域課題の解決

#### スマートシティ伊勢を推進する上での3つの理念



#### スマートシティ伊勢の基本5原則



### (2) スマートシティ伊勢を実現していく上での3つの基本理念

#### 理念①

市民起点  
市民(利用者)中心主義

市民の要求や課題を起点に、データや技術を解決の1つの手段として活用し、市民の幸福や健康の向上を目指します。

#### 理念②

共創による  
新しい価値の創出

市民、企業、大学、NPO 団体、行政など多様な主体が主体的に参画し、組織や分野を超えた共創の街づくりを推進することで、新たなサービス・仕組みを創出することを目指します。

#### 理念③

素早く実践・検証・改善

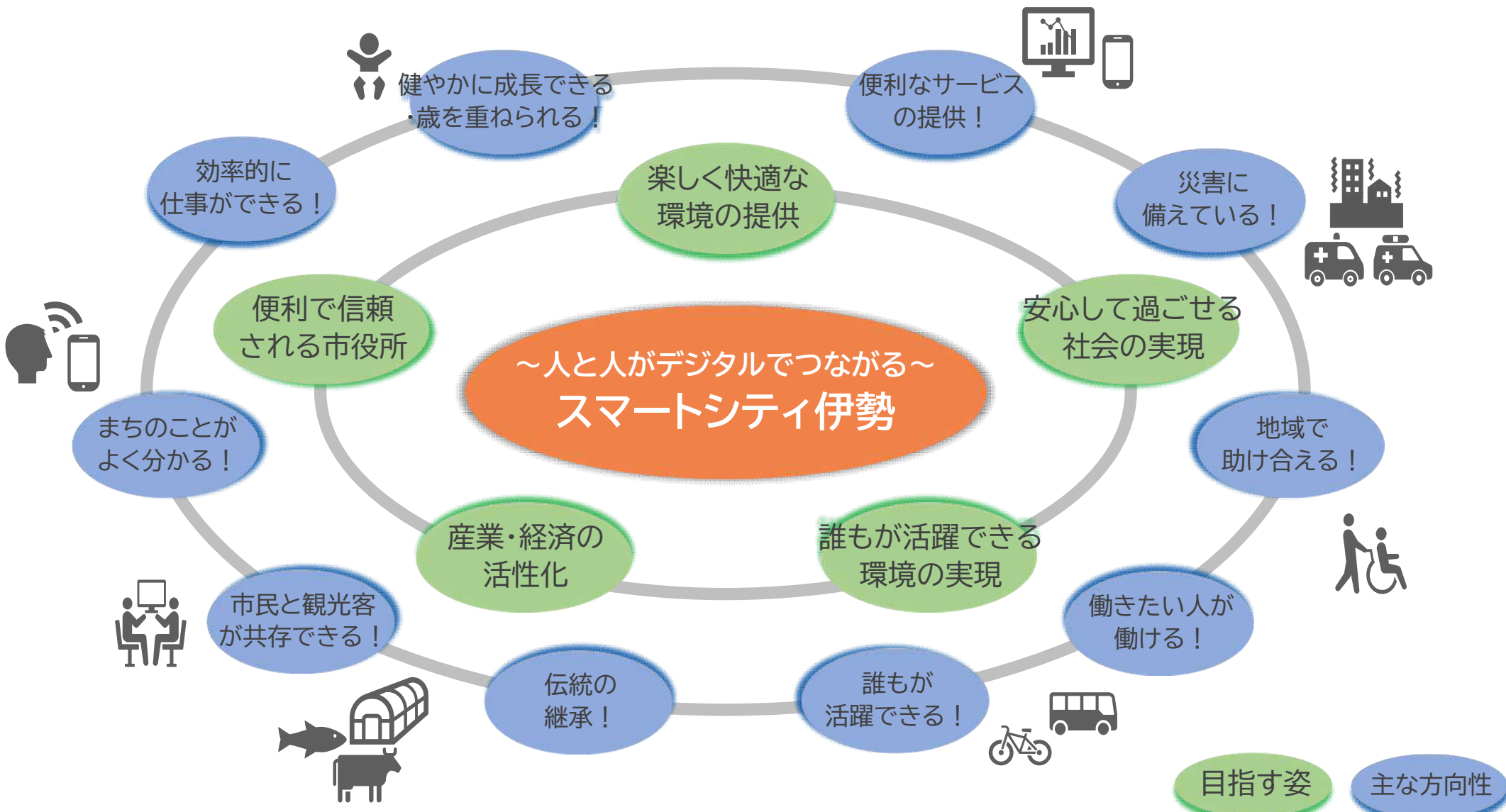
まずは小規模でチャレンジし、実行・検証・改善を繰り返すことで、求められるサービス・仕組みを創出します。

(3) スマートシティ伊勢の基本5原則

原則①	原則②	原則③	原則④	原則⑤
<p><b>様々なサービスや組織が相互に連携</b></p>	<p><b>多様性と包摂性</b></p>	<p><b>安全・安心の確保</b></p>	<p><b>透明性確保</b></p>	<p><b>運用面、資金面での持続可能性の確保</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 民間企業、学術機関、関係団体、市民グループなど、多様なステークホルダー同士が、連携を深め、各者が保有する豊富な知見・データを活かした取り組みを推進します</li> <li>○ 地域や分野の壁を越えたデータやサービスの連携により相互運用性を確保し、サービスの全体の最適化と新たな価値の創出を図ります</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタル技術を、あらゆる人の社会活動やまちの運営をサポートするツールとして活用します。デジタルで年齢や国籍、性別、障がいの有無などを問わず、すべての人の社会参加を支え、多様で包摂的な社会を目指します</li> <li>○ 先端技術やデータの活用の効果は、経済性や効率性だけでなく、課題解決への寄与など社会的貢献性を大切にします</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スマートシティの実現に向けたサービス設計にあたっては、サイバー攻撃などに対応した適切なセキュリティ対策を講じます</li> <li>○ 自然災害、不慮の事故などにより情報システム等のサービスに障害が発生した場合でも、最低限の機能を維持しながら、早期に回復できる能力を確保するように努めます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ データの流通や活用にあたっては、透明性の確保や市民・サービス利用者の個人情報・プライバシーの保護に十分に配慮を行います</li> <li>○ 個人情報の取得・利用にあたっては、個人情報の保護に関する法令等を遵守したうえで、本人同意を原則とします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スマートシティの実現に向けたサービス設計にあたっては、運用面や資金面の両方から持続可能な仕組みを検討します</li> <li>○ サービス利用者、サービス提供者の双方が価値を享受できる仕組みを検討します</li> </ul>

# V. 取組の方向性

## (1) スマートシティ伊勢で実現していく姿



スマートシティ基盤の整備  
(データ連携基盤の導入・推進体制の充実、規約・ルール作り)

## (2)① 楽しく快適な環境の提供

目指す姿	市民が生活しやすく、伊勢を訪れる人も楽しく過ごせるまち
------	-----------------------------

方向性	取組の例
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まちのお店が利用しやすい</li> <li>○ 車がなくても、充実した生活ができる</li> <li>○ 伝統文化や古いまちなみを残しながらも、新しい技術の活用がされている</li> <li>○ 市民の“住みやすさ”と観光客にとっての“観光地の魅力”の両立している</li> <li>○ 通信環境が整っている</li> <li>○ ほしい情報がスマートフォンで入手できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタルマップでお店の営業情報やメニュー、対応している電子決済、距離などが見れる仕組み</li> <li>○ キャッシュレス決済の推進</li> <li>○ 自動運転やオンデマンド交通などの導入</li> <li>○ 公共交通の運行状況や待ち時間の可視化</li> <li>○ 伝統文化や古い街並みのデジタル技術による再現</li> <li>○ サイネージやアプリを利用した観光案内の実施</li> <li>○ リアルタイムでの混雑情報の提供や、混雑状況や位置情報に応じたAIによる観光ルートの提案</li> <li>○ 市民や観光客が利用する施設のWi-Fi環境整備</li> <li>○ オンラインでの施設や設備の位置情報の共有</li> </ul> <p style="color: red;">(全体として、あくまで例示であることを説明入れる。)</p>

### (2)② 安心して過ごせる社会の実現

#### 目指す姿

地域で助け合い、幸せに過ごすことができる安全・安心な環境

方向性	取組の例
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 様々な情報や取組を簡単に知ることができる</li><li>○ デジタルへの不安や苦手意識をなくせている</li><li>○ 気軽に相談し、サポートが受けられる</li><li>○ 見守り、支えあい、地域で助け合える</li><li>○ 子育てがしやすい</li><li>○ 安全に情報が活用できている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ SNSやアプリを活用した情報発信</li><li>○ デジタルツールの利便性の周知</li><li>○ 苦手な人でも使いやすいツールの導入</li><li>○ 困っている人と助けることができる人が直接コミュニケーションを取れる仕組み</li><li>○ 危険個所や不審者情報をデジタルマップで共有 (防災・防犯情報というキーワードを入れる)</li><li>○ 無人化による(言い方変える)サービス提供時間の延長</li><li>○ 位置情報を活用した見守り</li><li>○ マイナンバーカードを活用した情報共有</li></ul>

(2)③ 誰もが活躍できる環境の実現

<b>目指す姿</b>	多様な働き方や誰もが活躍できるまち
-------------	-------------------

方向性	取組の例
<ul style="list-style-type: none"><li>○ ワークライフバランスを取りながら働ける</li><li>○ 勤務時間や勤務場所を問わず、様々なサービスを受けられる</li><li>○ 若者や高齢者、障がい者など、全ての人が働きやすい</li><li>○ 個性や特徴にあった就労ができている</li><li>○ 市民がまちづくり活動に参画しやすい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ テレワーク環境の整備</li><li>○ サテライトオフィスの誘致</li><li>○ オンラインサービスの拡充</li><li>○ ドローンを活用したサービスの提供</li><li>○ 自動化ツールによる業務効率化</li><li>○ 現場作業の負担軽減ツールの導入促進</li><li>○ 学生が老舗のデジタル化をサポート</li><li>○ マッチングアプリなどを活用した就労支援</li><li>○ 地域ポイントを活用するなど、市民が簡単に改善のアイデアを発信できる市民参加型プラットフォームの導入</li></ul>



## (2)④ 産業・経済の活性化

<b>目指す姿</b>	様々な業界が協力し合う、活気があるまち
-------------	---------------------

方向性	取組の例
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 異なる産業分野が付加価値を創出している</li> <li>○ 新たなビジネスモデルを構築できている</li> <li>○ デジタル化の普及啓発で地域企業を支えられる</li> <li>○ AIを活用して高効率化に取り組んでいる</li> <li>○ 地域の企業を支える人材を育成し活用できている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタルツールを活用した農畜水産物の付加価値の創出(6次産業化)</li> <li>○ 顧客情報の他分野における活用</li> <li>○ リモートワークを活用した労福連携</li> <li>○ 地域企業のデジタル化サポート(デジタルツールの導入支援や生成AIの活用支援など)</li> <li>○ デジタル化補助金等の活用サポート(補助金/助成金など活用施策の自動通知)</li> <li>○ 地域企業のデジタル化優良事例の共有</li> <li>○ 観光MaaS等などの交通機関連携</li> <li>○ タイムパフォーマンス、コストパフォーマンス、安全性等の見える化</li> <li>○ 人手不足等の課題のAI診断</li> <li>○ 収益改善・情報活用・DXなどの研修のリモート実施</li> </ul>

# V. 取組の方向性

## (2)⑤ 便利で信頼される市役所(限定していると、違和感) 行政とか? ~ ~なまちとか?

**目指す姿** 市民目線で運営をしている、**まちの見本になれる**市役所(市が上からに見えてしまう)

方向性	取組の例
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 人に優しいサービスの提供している</li><li>○ 誰もがデジタルによる恩恵を享受できている</li><li>○ 安定的なシステムを導入し、信頼性を確保している</li><li>○ デジタルリテラシーの高い職員を育成している</li><li>○ 効率的に業務を行っている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 行政手続きのオンライン化</li><li>○ LINEを活用した相談窓口の設置</li><li>○ SNSを活用した情報発信</li><li>○ 高齢者向けスマートフォン教室の開催</li><li>○ 標準システム導入やセキュリティ対策強化</li><li>○ デジタルリテラシー向上研修の実施</li><li>○ 電子決裁の導入やテレワーク環境の整備</li><li>○ 業務効率化ツールの活用</li></ul> <p>(アンケート結果やワークショップ結果がどのように反映されたか分かるように。)</p>

# VI. 既に実施している取組

## (1) スマートシティの推進

### スマートシティ推進体制の整備



### スマートシティ推進宣言の発出

#### スマートシティ推進宣言

「～人と人がデジタルでつながる～ スマートシティ伊勢」

伊勢市は、神宮林や清流宮川などの豊かな自然に恵まれており、古くから神宮が鎮座するまちとして栄えてまいりました。さらに、先人たちが守り続けてきた自然や伝統、神宮を訪れる旅人をもてなす文化が根付くまちでもあり、今も全国各地から多くの方が伊勢を訪れ、賑わっています。一方、全国的に人口減少・少子高齢化が叫ばれている中、伊勢市も例外ではなく、各分野で労働力不足に直面しているなど、様々な地域課題を抱えています。

国においては、令和3年5月にデジタル改革関連法案が成立され、令和3年9月にはデジタル庁が創設されました。デジタル化を進める上での基本理念を示したデジタル社会形成基本法では、これまで国と地方公共団体の責務とされていたデジタル社会の形成において、民間事業者の責務についても明記されました。

また、「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」においても、目指すデジタル社会のビジョンとして、「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」が掲げられています。

伊勢市においても、行政と各分野の団体や事業者、学校等が連携し、人口減少などによる地域課題を、デジタル技術を用いて解決できる社会の実現に向けて、取り組む必要があります。

そのため、わたしたちは、産官学民が連携して、デジタル技術を活用したデジタル変革(デジタルトランスフォーメーション)により、サービスの向上、組織運営の効率化及び地域課題の解決を行うスマートシティの実現に向けて取り組むことを、ここに宣言します。

スマートシティ伊勢推進協議会

### 商工・観光部会の設置

スマートシティ伊勢推進協議会 (SCI推進協議会) では、分野別の調査・検討を行うため、分野ごとに部会を設置します。部会は、参画団体として参画しているそれぞれの分野の主要団体と市担当部署のほか、事業目的に応じて様々な協力・ご支援をいただける企業・学校等で構成し、実証事業の実施及び検証を行います。今回は商工・観光分野における部会を設置します。



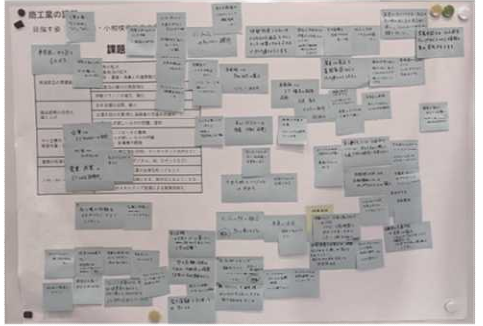
### ワークショップの開催

ワークショップの開催(令和5年2月18日 伊勢商工会議所 5階大ホール)

● 商工分野について議論するグループ



● 出てきた案





# VI. 既に実施している取組

## (2) 観光客の受入環境整備

### リモート観光案内システムの導入

- リモート技術を導入し、感染リスクを無くしつつ、サービス提供方法・体制の柔軟性を確保する。
- 拠点の伊勢市駅案内所は、設備等を新しい旅行にあわせ強化し、対面案内を実施する。また、リモート型案内所へのオペレーションを行う。

● 「安全・安心」に観光案内が十分実施できていなかった



● 4か所の案内所にリモート観光案内端末を設置 (R4.12実施)



● 伊勢市駅の対面案内の感染症対策強化



## 主要観光地の混雑状況配信

### 事業内容

主要観光地にカメラを設置し、得られた画像データをAIで解析し、リアルタイムな混雑状況等をWEB配信する。

### 効果

観光客: 3密回避のための判断材料を得られ、混雑を避ける行動をとることができるようになる。  
 観光事業者: 来客数の平準化が図られる。ウイルス感染のリスクが抑えられる。  
 市民: 過密状態の発生が抑制され、市内でのウイルス感染リスクが低減される。

### 表示イメージ



「混雑」「やや混雑」「空いています」のいずれかを表示

### スキーム



## 観光客周遊促進の実証事業



「Desika: 伊勢でしか」 (イメージ)



## VI. 既に実施している取組

### (3) デジタル人材の育成・活用

#### 地域活性化起業人制度の活用(令和5年度予算)



#### 日本リスキリングコンソーシアムへの参画



市民のデジタルスキル等をアップデートする機会  
の提供につながると考え、伊勢市として参画。

#### ITパスポート取得支援(令和5年度予算)

##### ITパスポート試験

合格者には、受験手数料の一部を助成！  
(受験手数料7,500円のうち、5,000円を助成)

ITパスポート試験とは・・・

ITを活用するすべての社会人、これから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験です。



詳細はタップしてご覧ください

国家資格(ITパスポート)の  
受験料を支援

ITパスポートとは・・・

ITを活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべき、ITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験



# VI. 既に実施している取組

## (4) 防災に関する取組

### 防災メール、Yahoo!防災との連携

伊勢市では防災行政無線の放送内容を登録したメールアドレスへ配信するサービスを実施しています。登録者数も1万5千人を超え、住民のみならずも信頼いただいているサービスであると考えています。

#### ○防災メールでの配信情報

防災行政無線情報	避難情報、避難所開設等の防災情報、行方不明者情報など、防災行政無線でお知らせする情報
火災情報	伊勢市消防本部管轄内での火災情報を配信
防犯情報	伊勢市内の不審者情報、振り込み詐欺、犯罪発生情報



防災メールの登録者数 15,428人(2021年10月1日現在)

#### ○ヤフーとの災害協定

令和元年6月19日にヤフー株式会社と「災害に係る情報発信等に関する協定」を締結し、「Yahoo!防災速報」アプリで防災情報を発信しています。

災害から命を守る  
ヤフーの防災アプリ

ひとりひとりに合った情報をお届け  
**Yahoo!防災速報**

3000万ダウンロード突破!

App Store | Google Play

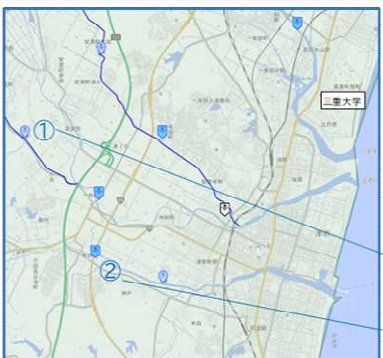
### 危機管理型水位計の設置

#### 「危機管理型水位計」とは

- 国の革新的河川技術(管理)プロジェクトにより開発された、洪水時の観測に特化した水位計
- 長期間メンテナンスフリー(無給電で5年以上稼働)低コスト(本体費用は100万円/台以下)
- 小型で省スペース設計のため、河川の堤防や橋梁に簡単に設置が可能



#### 「危機管理型水位計」で近くの川の水位を確認



【凡例】  
～危険度をCHECK～

危機管理型水位計

- ① 危険度水位超過
- ② 危険水位超過
- ③ 観測開始水位超過
- ④ 平常水位
- ⑤ 欠測
- ⑥ 異常水位未設定
- ⑦ 欠測

通常水位計

- ⑧ 危険度水位超過
- ⑨ 危険水位超過
- ⑩ 観測開始水位超過
- ⑪ 平常水位
- ⑫ 異常水位未設定
- ⑬ 欠測

自分のパソコンやスマホで水位を確認

川の水位情報 検索

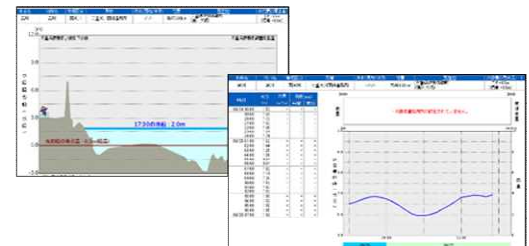
QRコードから確認できます

①危機管理型水位計アイコン  
危機管理型水位計が設置されている箇所にアイコンが表示  
水位計が設置されている河川は、青い線で強調表示

②通常水位計アイコン  
通常水位計が設置されている箇所に五角形のアイコンが表示

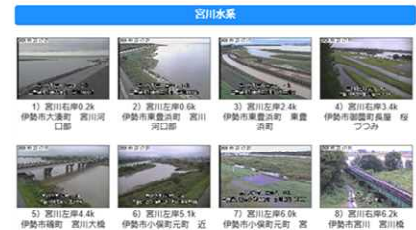
### 災害対策本部における川の防災情報活用

#### ○川の防災情報



近隣や河川上流部の観測所の水位データを  
避難情報の判断に活用

#### ○河川ライブカメラ



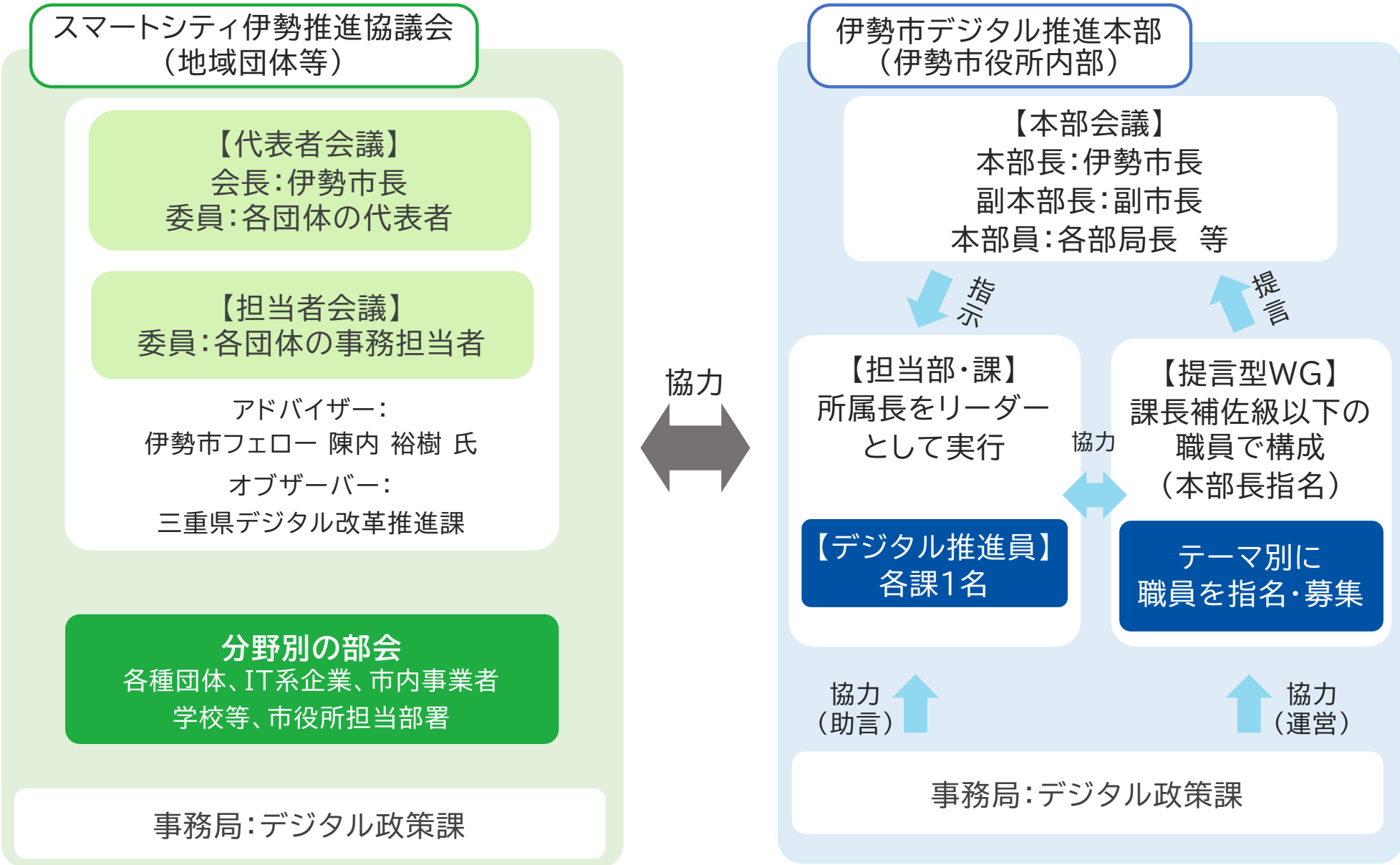
各河川のリアルタイムの状況を把握する



- ・必要な場所に適切な災害パトロールの開始、実施
- ・気象状況等と併せ、適切なタイミングで避難情報を発令
- ・被害状況の客観的評価と応急復旧の指示

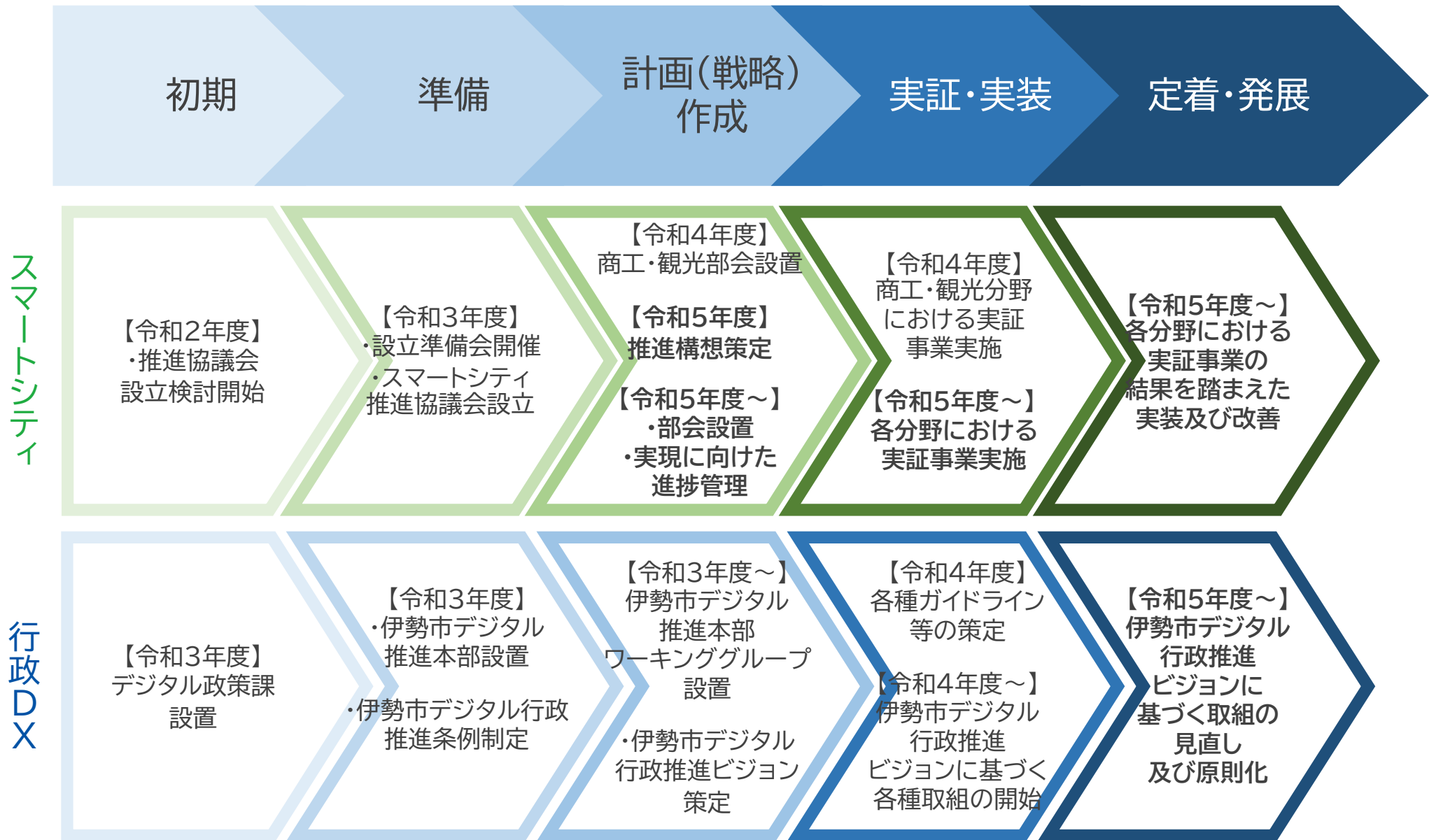
# VII. 推進体制

スマートシティの実現に向けて、産官学民が協力して取り組める体制を整えます。





# VIII. 今後の進め方・ロードマップ



太字はこれから実施する取組、または継続している取組

スマートシティ伊勢推進構想策定委員会 委員名簿

50音順(敬称略)

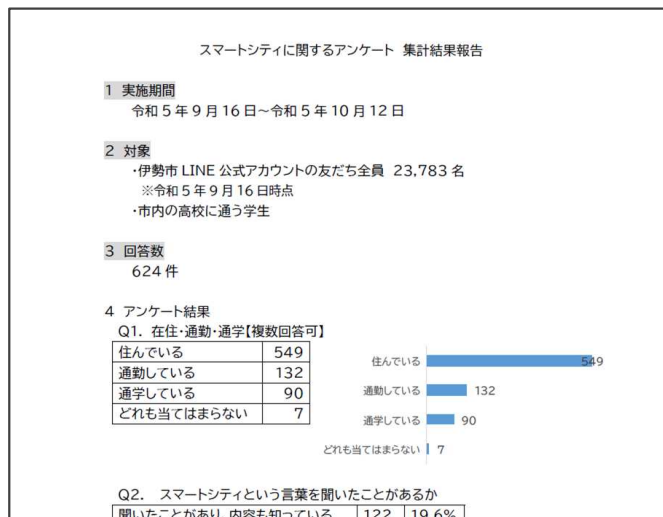
役職	氏名	所属団体等	委員区分
委員	池山 敦	皇学館大学	学識経験者
委員	岡田 麻沙	公益社団法人 伊勢市観光協会	公の団体代表
委員	岡野 功	伊勢商工会議所	公の団体代表
委員	亀谷 崇	一般社団法人 伊勢地区医師会	公の団体代表
委員	南平 拓也	伊勢農業協同組合	公の団体代表
委員	野中 秀行	社会福祉法人 伊勢市社会福祉協議会	公の団体代表
委員	早川 千奈美	伊勢小俣町商工会	公の団体代表
委員	宮崎 孝	独立行政法人 国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校	学識経験者

## スマートシティ伊勢推進構想策定委員会 開催経過

- 第1回 策定委員会(7/18) … 第1案(骨子案)提示
- 第2回 策定委員会(8/22) … 第2案(草案)提示
- 第3回 策定委員会(10/25) … 第3案(事務局案)提示、  
ワークショップ・オンラインアンケート結果報告
- 第4回 策定委員会(1月下旬～2月下旬開催 ) … パブリックコメント結果報告・確定稿提示

## スマートシティ伊勢推進構想策定委員会 市民参画

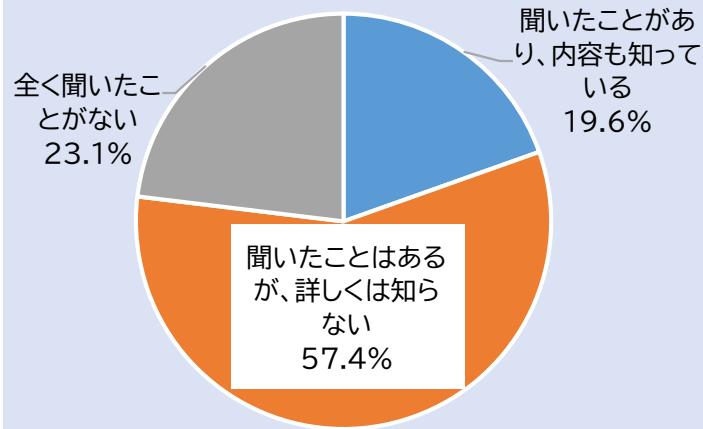
- ワークショップ開催
- オンラインアンケート実施
- パブリックコメント実施



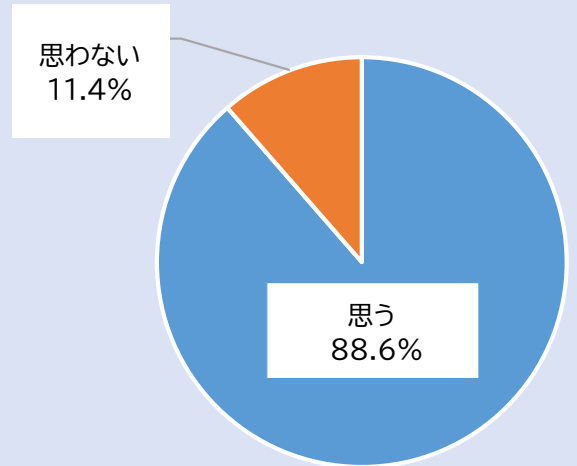
## Q1 在住・通勤・通学



## Q2 スマートシティという言葉聞いたことがあるか。



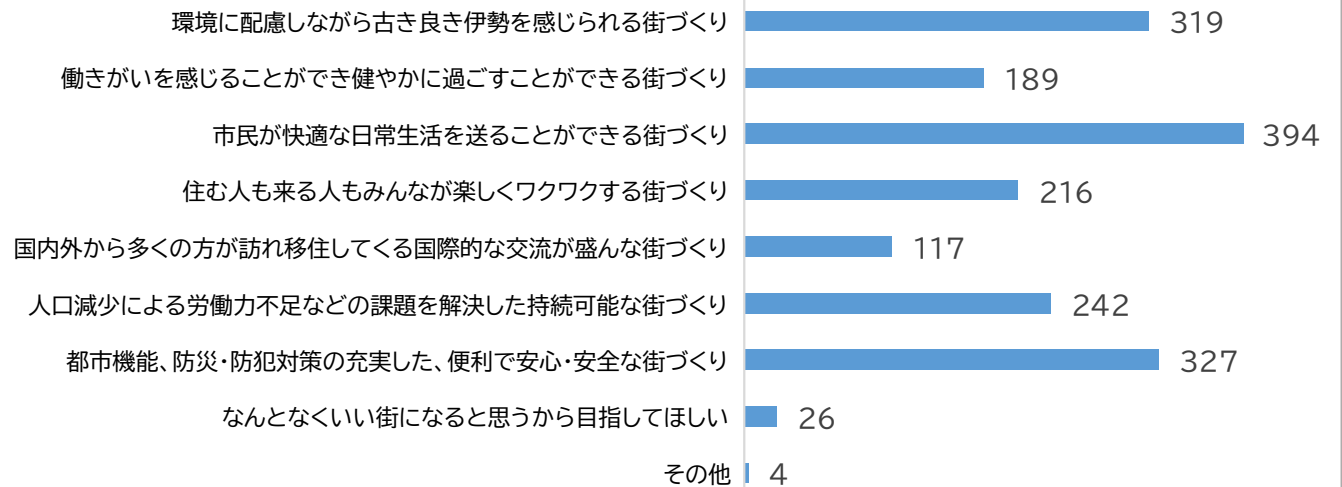
## Q3 スマートシティを目指す必要があると思うか。



## Q4

どんな街を目指すべきか。  
(Q3で「思う」と回答した方のみ、  
複数回答可)

※その他意見は28ページ参照

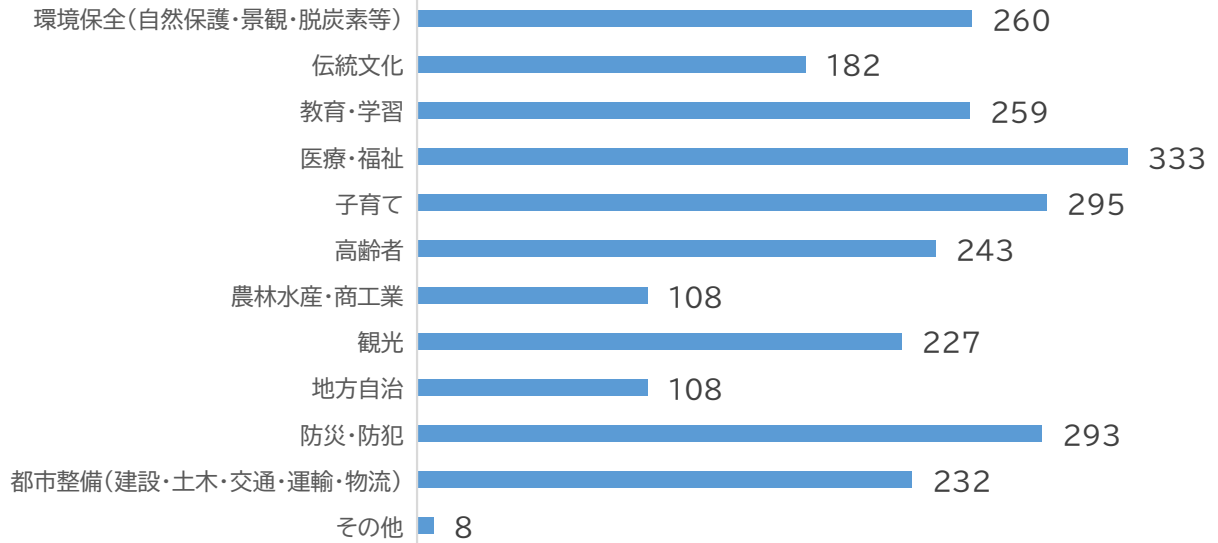


## Q5

どのような分野での取組を進めてもらいたいのか。

【Q3で「思う」と回答した方のみ、複数回答可】

※ その他回答は28ページ参照



## Q6

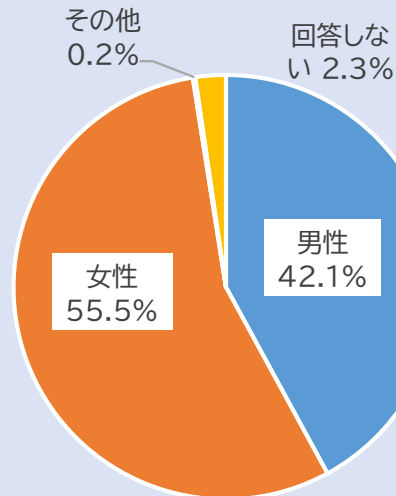
スマートシティを目指す必要があると思わない理由  
【Q3で「思わない」と回答した方のみ】

※ その他回答は28ページ参照

- ・今まで通りの暮らしがいいから
- ・情報の流出がこわい
- ・ある程度の年齢以上の方が理解することが難しくなりついて行けなくなる様な気がする
- ・他にすべきことがある など

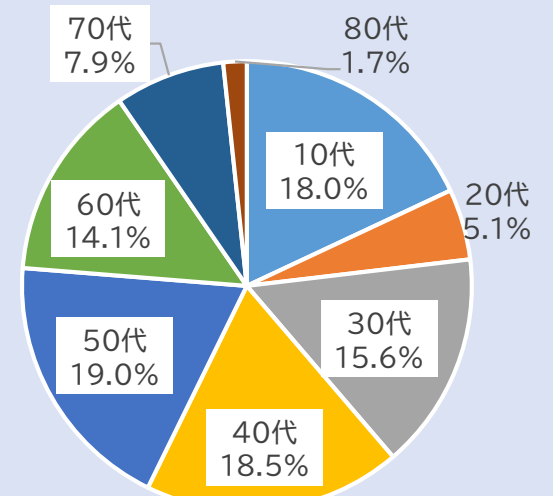
## Q7

属性情報(性別)

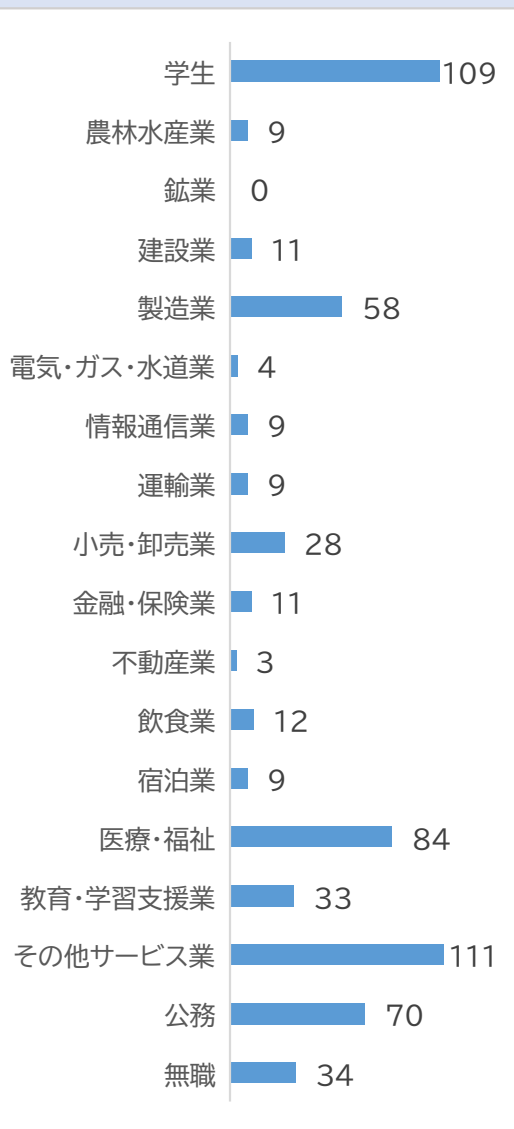


## Q7

属性情報(年齢)



## Q7 属性情報(業種)



## Q4 その他回答

- ・子育て世代が住みよい街づくり
- ・高齢者の移動、交通手段(配車など)の確保、DX化
- ・伊勢の子どもたちの偏差値を全国1位にする。教育市にしないと人口が増えない
- ・役所などの手続きを時間外でも対応してもらいたい。あとは、鉄道と三交バスとおかげバスを合わせた乗り換え案内があると良い。あとは良い。

## Q5 その他回答(一部抜粋)

- ・シルバーでの仕事
- ・自動運転、ドローン、リニア、Wi-Fi
- ・6月の大雨で学校からの緊急メールで子どもを迎えに行きましたが、道路や駐車 場が冠水していて大変ヒヤヒヤした。デジタルを駆使して細かな情報が欲しかった。緊急事態は慌ててしまうので、進行形のハザードマップがアプリとかで確認できていたなら、「今は外に出ない方が安全」という判断ができたのに、と思いました。

## Q6 その他回答(一部抜粋)

- ・スマートシティと言葉は良いけど高齢者が置いてきぼりになると思います。今でも 置いてきぼりの傾向が多いです。
- ・現状の方法で不自由がないから
- ・それより先に高齢者、障害者、子育て世代への支援など他にもっとしてもらいたい ことがあるから。



## 参考 I . 策定経過 (ワークショップ結果)

令和5年10月18日:市民が便利で暮らしやすいまち「スマートシティ伊勢」を考えるワークショップの開催

### 〈① スマートシティという言葉からイメージするもの〉

※一部抜粋

- まち全体のイメージ  
近未来的、便利、安全、快適に暮らせる、豊かな生活、かっこいい、綺麗
- できることのイメージ  
スマホで色々できる、各種無人化や電子決済、情報の可視化、ペーパーレス
- ネガティブなイメージ  
固い、スマホがないと何もできない、高齢者に優しくない、情報管理される
- その他  
脱炭素、クリーン、遠隔

### 〈② デジタル化が進む中で、伊勢はどんなまちを目指してほしいか〉

- ・事故が少なく、子どもを守れる安全なまち
- ・伝統文化や古いまちなみを残し、新しい技術が交錯するまち
- ・オーバーツーリズムにならない程度に活性化されたまち
- ・電車やバス、タクシーなどの交通機関が充実したまち
- ・無人運転や混雑状況の把握がデジタルでできるまち
- ・積極的に情報を可視化し、利用できるまち(情報発信を含む)

### 〈③ ②を実現するためには何をすべきか〉

- ・交通量や事故の数を分析し、信号を調整する
- ・正しい参拝の手順や方法を案内してくれるアプリの開発
- ・デジタルマップ上で、店の営業状況や距離、ごみ箱の位置が分かる
- ・キャッシュレス決済の導入拡大
- ・企業誘致(ロボット製作会社など)
- ・市民がどうしたらよい街になるかを考え、市に届けられる仕組み



(1) 推進体制・環境の整備

### 庁内推進体制の整備 ~伊勢市デジタル推進本部の設置~

庁内のデジタル化を推進するため、市長を本部長とする「伊勢市デジタル推進本部」を設置しました。(令和3年7月30日付)

**【組織図】**

```

    graph TD
      WG[【ワーキンググループ】  
テーマ別に課長補佐級以下の職員8~10名程度] -- 提案 --> MD[【本部会議】  
本部長:市長  
副本部長:副市長  
本部長:各部署長等]
      MD -- 指示 --> D[【担当部・課】  
リーダー:所属長  
メンバー:デジタル推進員]
      MD <--> |協力| D
      MD -- 協力(運営) --> S[【事務局】  
デジタル政策課]
      S -- 協力(助言) --> D
  
```

※ 推進体制とは別に情報セキュリティ対策強化のため「伊勢市システム管理・セキュリティ委員会」を設置。(令和3年7月30日付)

### 伊勢市デジタル行政推進ビジョンの策定

~利用者目線で作るデジタル行政~  
**市民に優しく、暮らしを便利に**

行政サービスのオンライン化・デジタル環境の整備等を推進し、デジタル技術を活用しようと思える価値の創出を目指します。推進に当たっては、利用者に優しいUIの設計を心がけるとともに、市民のデジタルリテラシーの向上にも取り組みます。また、事務の高効率化・高品質化を図りながら、安全・安心を感じられる行政運営の実現を目指します。

**■ ビジョンの位置づけ**  
第3次伊勢市総合計画の分野別計画に位置づけられ、「官民データ活用推進基本法」第9条第3項に規定される「市町村官民データ活用推進計画」としても位置づけられます。また、国が定める「自治体DX推進計画」に示されている重点取組事項等に対する市の基本方針等を定めるものです。

**■ ビジョンの計画期間**  
令和3年10月11日(デジタルの日)~令和8年3月31日  
また、本ビジョンを確実かつ効率的に実行していくために、令和4年3月31日に本ビジョンのアクションプラン編を策定しました。

### 伊勢市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例

令和3年10月11日(デジタルの日)に伊勢市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例(通称:伊勢市デジタル行政推進条例)を制定し、パソコンやスマートフォンなどを用いた手続きを可能としました。

**■ 第1条. 目的**  
情報通信技術を活用した行政の推進について、情報通信技術を利用する方法により手続等を行うために必要となる事項を定めることにより、手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図り、もって市民生活の向上に寄与すること。

署名等が必要な手続きや手数料の納付等については、伊勢市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例規則を定めました。

※ 書面による手続きを全てデジタル化するのではなく、デジタルによる手続き等もあわせて可能とすることで、市民の利便性を向上させることとしています。

※ 実際の運用に当たっては、情報システムの整備、電子署名の取扱い等関係例規の整備及びデジタル活用できる手続等の整理を行い実施します。

申請フォーム

必要な通数  
1 通

必要な記載事項\*

世帯主および続柄  
 必要  不要

本籍地・筆頭者  
 必要  不要

マイナンバー  
 必要  不要

## (2) デジタル技術を活用した、人にやさしいサービスの提供

### 行政手続きのオンライン化①

デジタル田園都市国家構想交付金 TYPE1 活用

**行政手続きのオンライン申請の開始**

マイナンバー制度の導入に合わせ、平成29年1月からマイナポータルの本格運用が開始されており、本市においても、子育てや介護分野における一部手続きのオンライン申請が可能となっておりますが、

**令和4年2月1日より、様々な行政手続きのオンライン申請を可能とする「伊勢市スマート申請」を開始**

**伊勢市スマート申請で利用できる12の行政手続き**

三重県内初となる7つの手続き

- 所得証明
- 課税(非課税)証明
- 戸籍(除籍)証明全般
- 戸籍の付票
- 住民票除票
- 身分証明書
- 独身証明書交付申請

便利に使える5つの手続き

- 住民票の写しの交付申請
- 後援名義申請
- 犬の登録事項変更届
- 犬の死亡届
- 空き家バンク利用登録申込

対象手続きは順次拡大予定

マイナポータルでオンライン申請が可能な手続き

- 児童手当受給資格及び児童手当の額についての認定請求
- 児童手当の額の改定請求及び届出
- 児童手当受給事由消滅の届出
- 児童手当現況届
- 保育施設等の利用申込
- 妊娠の届出
- 介護保険被保険者証の再交付申請
- 介護保険負担割合証の再交付申請



### 伊勢市LINE公式アカウント

伊勢市LINE公式アカウントは令和元年8月に開設以降、

令和5年3月31日時点で**友だち登録者数は21,412人**となっています。

**伊勢市LINE公式アカウントでできること**

欲しい情報を受信する

- 受信設定(R2.6~)
- 11のカテゴリにわけて情報発信

申請や申込をする(オンライン手続)

- 一時保育予約(R1.11~)
- イベント申込(R2.6~)
- 水道の開始・中止の申込(R3.1~)
- 伊勢市スマート申請案内(R4.2~)
- 公立幼稚園の欠席連絡(R4.4~)

市公式SNSの案内(LINE・Facebook等)

- 各種相談LINEのご案内(R3.4~)
- 公式Facebook、Twitter、Youtube等の案内(R4.2~)

気になることを調べる(チャットボット案内)

- 総合案内(R4.2~)
- ごみ分別・収集の案内(R2.7~)
- 障がい福祉の手続き案内(R3.4~)
- 新型コロナ関連支援情報の案内(R3.4~)
- 伊勢総合病院の案内(R4.2~)



気になることを調べる(ホームページ案内)

- 市各種ホームページの案内(R1.8~)
- 市窓口・主要観光地混雑状況(R3.4~)
- 新型コロナ関連ページの案内(R4.2~)

欲しい情報を受信する

- 受信設定(R2.6~)

伊勢市公式LINE登録

### 伊勢市LINE公式アカウント ~一時保育予約システムとゴミチャットボット~

#### ◇LINEによる一時保育予約システム導入

伊勢市LINE公式アカウントから一時保育の利用登録や予約を行うことが可能

**自治体全国初!**  
R1.11サービス開始

LINEによる申込者の割合 **ほぼ100%**で推移

2023年1月分申込

LINEによる申込者数	窓口申込者数	LINE一時保育登録者数
120人	1人	296人

伊勢市として、初めてのアジャイル型開発を体験

※利用実績の集計や空き状況がシステムで見れるようになり  
電話対応が減ったことで保育士の業務負担の軽減にもなった  
※東京都中野区でも同システムで試行実施



#### ◇ごみチャットボット 1日 約60回利用



### (3)利用者が身近に感じられるデジタル環境の整備

#### キャッシュレス導入事業

納付書の支払いや公共施設の利用料等の支払いにおいて、キャッシュレス決済の導入を進めています  
 令和5年4月1日現在、納付書は2種類、公共施設は14窓口において、キャッシュレス決済を導入済みです。

■ 納付書払い

種別	導入サービス
上下水道料金	クレジットカード決済、PayB、LINE Pay、PayPay
市税等	PayB、LINE Pay、PayPay



■ 公共施設(窓口)

施設名	導入サービス			
	クレジットカード決済	電子マネー	交通系IC	コード等 その他決済
戸籍住民課	○	○	○	○
課税課・各総合支所(二見・小俣・御園)	○	○	○	○
市立伊勢総合病院	○			
民話の駅 蘇民	○	○	○	○
タイムスタジアム伊勢 伊勢フットボールヴィレッジ				○
いせトピア、シンフォニアテクノロジー 響ホール伊勢				○
伊勢河崎商人館、賓日館				○
市民活動センター				○

#### 高齢者向けスマートフォン教室・スマホ相談窓口の開催

デジタル技術を利用できる方と利用できない方との間の格差を解消し、全ての住民にデジタル化の恩恵を広く行き渡らせていく、デジタルデバйд対策に取り組むことが求められています。令和3年度から、高齢者を対象としたスマートフォン教室を市内で開催しています。

■ スマートフォン教室の概要

電話、カメラ、インターネット、地図、LINE  
 伊勢市スマート申請、マイナンバーカード申請 など

【令和3年度】 国との連携事業

開催期間 令和3年10月～令和4年2月  
 参加者数 14回(全42コマ) 63人

【令和4年度】

- ・デジタル政策課 開催 約190人
- ・公民館講座(社会教育課) 約400人
- ・視覚障がい者対象(国との連携事業) 約18人
- ・県との連携事業 約200人
- 計 約800人



■ スマートフォン相談窓口

～実際の様子～

【令和4年度】

スマートフォンやアプリに関する個別相談  
 開催期間 令和4年10月～令和5年1月  
 参加者数 週1回4時間(30分×8枠)

#### オープンデータを活用した宇治山田商業高校と連携した取組

##### 宇治山田商業高校の活用事例

情報処理科の学生が、1年間オープンデータ活用を学習し、地域のための活性化プランを伊勢市に提案

アプリ名	活用したデータ	運用開始
ごみ出しアプリ「5374.jp」	ごみ収集一覧表	平成30年7月
防災アプリ「安心みえた」	災害時指定避難所一覧	平成31年3月
スマートフォンアプリ「5374クイズ」	ごみカレンダー、ごみ分別一覧表	平成31年3月
防災クイズ「花さかいせりい」	こどもと保護者の防災ハンドブック	令和2年3月
ごみ出しアプリ「5374.jp」カレンダー版	ごみカレンダー、ごみ分別一覧表	令和3年3月





# (4) 高い利便性と信頼性を両立した信頼される行政運営

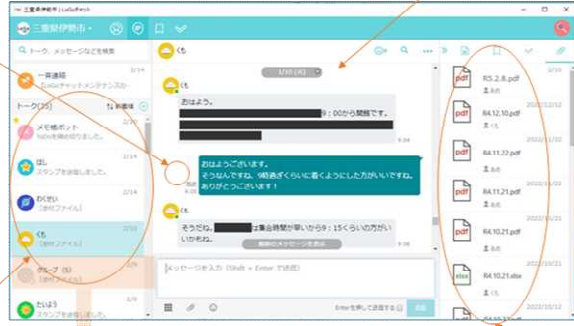
## LoGoチャットの活用 ~行政ネットワーク専用チャットツール~

LoGoチャットとは？

➢ シームレスにやり取りが出来るツール！

既読により相手が確認したかが分かる。

リアルタイムでメッセージが可能

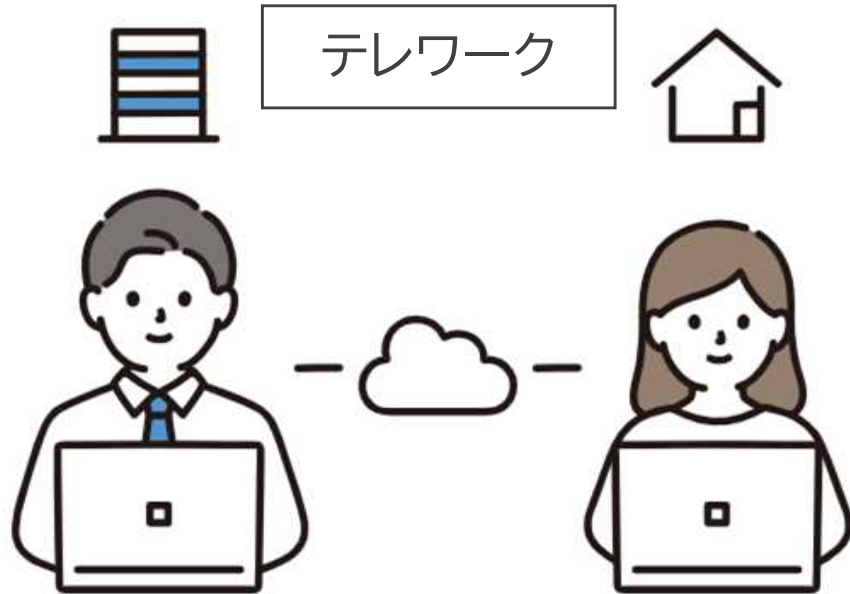


一度トークした相手は一覧で表示  
(再度アドレス等を開く必要はない)

課・係・プロジェクト単位で  
グループを作ることも出来る。

共有したデータは一覧で表示  
(埋もれてしまっても見つけやすい)

データ共有も可能



テレワーク

電子決裁

## 文書の処理方法の原則

優先順位

電子決裁  
電子供覧



紙決裁  
紙供覧

## 生成AI(ChatGPT等)の活用

LoGo AI アシスタント bot版



6つの特徴

- 1 LGWAN・インターネットからChatGPTが使える
- 2 定額制の料金プラン
- 3 会話データはOpenAI社の学習に利用されない
- 4 個人情報の入力を制御できる
- 5 GPT-3.5およびGPT-4 に対応
- 6 ほかの自治体と情報交換できる

7.20(木) テキスト生成AI(ChatGPT等)活用セミナー  
14:00~16:00

プログラム	場所
1 ChatGPTを始めとする生成AIとは何か？	伊勢商工会議所 5階 大ホール
2 これを使いこなせないと、これからの時代についていけない？	
3 なぜ生成AIがすごいのか	定員
4 生成AIではどんなことができるのか	100名
5 便利だけじゃない！ここに気を付けなさい！	

講師 児玉知也  
株式会社TENHO CTO  
デジタルシティオキナワ株式会社 取締役

申し込み  
オンライン申し込み:  
Q: <https://logofarm.jp/form/EzFD/309173>  
FAX: 裏面をご覧ください

問い合わせ  
伊勢市役所デジタル政策課  
TEL: 0596-21-5569  
E-mail: digital@city.i-se.mie.jp

主催: 伊勢市  
共催: スマートシティ伊勢推進協議会  
協力: 伊勢商工会議所 デジタル化推進委員会  
講師派遣: 株式会社TENHO

用語	解説
RPA (アール・ピー・エー)	Robotic Process Automation の略称。これまで人間のみが対応可能と想定されていた作業、もしくはより高度な作業を、人間に代わって実施できるルールエンジンやAI、機械学習等を含む認知技術を活用して代行・代替する取組。
IoT (アイ・オー・ティイー)	Internet of Things の略称。あらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すというもの。
ICTツール (アイ・シー・ティー・ツール)	Information and Communication Technology(情報通信技術)ツールの略称。コンピュータなどの情報技術(IT)に加えて、インターネットのような通信技術を含む技術を実装したソフトウェア例:テレビ・WEB会議システム、チャットツール、ナレッジ共有ツール、ファイル共有ツールなど。
アイデアソン	「アイデア」と「マラソン」を組み合わせた造語で、アイデアの創出を目的としたイベント。
EBPM(イー・ビー・ピーエム)	Evidence Based Policy Making(証拠に基づく政策立案)の略称。統計データや各種指標など、客観的エビデンス(根拠や証拠)を基にして、政策の決定や実行を効果的・効率的に行うこと。
インパクト	短期、長期の変化を含め、事業や活動の結果として生じた社会的、環境的な変化、便益、成果(アウトカム)。
ウィズ/アフターコロナ	本構想においては、COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の世界的大流行によって市民の意識やライフスタイルが変わったこれからの社会を示す言葉。
ウェルネス	「健康な心身を維持・発展させる生活行動」の実現。
Well-Being (ウェルビーイング)	個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。
ウォーカブル	「歩く」を意味する「walk」と「できる」の「able」を組み合わせた造語。「歩きやすい」「歩きたくなる」「歩くのが楽しい」といった語感を持つ。
AI(エー・アイ)	Artificial Intelligence の略称。人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム、あるいは人間が知的と感じる情報処理・技術といった広い概念。
AIドリル	教材にAIを導入し、児童生徒の理解度に応じて復習問題を反復、または自動選択で表示する等の機能を持たせたもの。
SIB(エス・アイ・ビー)	Social Impact Bondの略称。地方公共団体等が、民間事業者に委託等する事業であり、解決すべき行政課題に対応した成果指標を設定し、支払額等を当該成果指標の改善状況に連動させるPFS(成果連動型民間委託)のうち、民間事業者が資金提供者から資金を調達し、地方公共団体等から受けた支払に応じて返済等を行うもの。



用語	解説
SNS(エス・エヌ・エス)	Social Networking Serviceの略称。友人・知人等の社会的ネットワークをインターネット上で提供することを目的とするコミュニティ型のサービスのこと。
SDGs(エス・ディー・ジーズ)	Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。
LWCI(エル・ダブル・シー・アイ)	Liveable Well-Being City Indicatorの略称。一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが研究している住みやすさと幸福度の指標。
エンパワーメント	力をつけること。また、自ら主体的に行動することによって状況を変えていこうとする考え方のこと。
オーバーツーリズム	特定の観光地において、訪問客の著しい増加等が、地域住民の生活や自然環境、景観等に対して受忍限度を超える負の影響をもたらしたり、観光客の満足度を著しく低下させるような状況。
オープンイノベーション	自社だけでなく他社や大学、地方自治体、社会起業家など異業種、異分野を持つ技術やアイデア、サービス、ノウハウ、データ、知識などを組み合わせ、革新的なビジネスモデル、研究成果、製品開発、サービス開発、組織改革、行政改革、地域活性化、ソーシャルイノベーション、国際化、プロセス改善等につなげるイノベーションの方法。
オープンデータ	官民データのうち、誰もがインターネット等を通じて容易かつ無償で利用できるように、公開されたデータのこと。
オプトイン	取得・活用するデータの種類、利用目的、利用先等を明示し、提供者の同意を得た上で、データを取得・活用すること。
観光客	神奈川県入込観光客調査による延入込観光客数。平成25年に2,000万人を超え、その後令和元年まで平均して2,000万人近い観光客が鎌倉市を来訪。令和2年は、COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の影響により、738万人まで減少。
GIGAスクール(ギガスクール)構想	文部科学省が提唱する構想。一人一台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め子どもの資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現すること。
QoL(キュー・オー・エル)	Quality of Lifeの略称。人々の幸福感など、社会の豊かさや生活の質のこと。
共生社会	多くの人にとっての「ふつう」や「当たり前」を前提にした社会に生きにくさや生き心地の悪さを感じる人がいることから、自分らしく生き、自分の望むかたちで社会に参加できるように、多様性を認め、互いを思い、安心して自分らしく暮らせるまちを意味する。

用語	解説
ケーススタディ	過去の成功例や失敗例・実例を詳しく分析し、問題解決のために必要な一般法則や原理を導き出すこと。
向社会的行動	地域内外の他者へのサポート、主体的な発案、地域への貢献行動。
個人情報	個人情報保護法に定義された「生存する個人に関する情報であつて、氏名や生年月日等により特定の個人を識別できるもの」。
COVID-19(コビッド・ナインティーン)	Coronavirus Disease 2019の略称。2019年に発生した新型コロナウイルス感染症のこと。
COI-NEXT(シー・オー・アイ・ネクスト)	SDGsに基づく未来のありたい社会像の実現に向けたバックキャスト型研究開発と、産学官共創システムの構築を一体的に推進するプログラムとして、2020年度に発足し、「共創分野」「政策重点分野(量子技術分野・環境エネルギー分野・バイオ分野)」で国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)に採択された18のプロジェクトのこと。鎌倉市では慶應義塾大学が有するデジタルプラットフォーム・IoT・3D製造技術を廃プラスチックの資源化策に導入し、産官学民が連携して、市内で排出される製品プラスチックをより付加価値のあるものに再商品化し、地域に還元することで循環型社会の構築を目指している。
実証事業	事業の実証からサービスの実装に至る段階にある先端技術・サービスを実地において試験し、その有効性や経済性などを確認すること。
市民	鎌倉市共生社会の実現を目指す条例の前文では、年齢、性別、性的指向や性自認、障害及び病気の有無、家族のかたち、職業、経済状況、国籍、文化的背景などが異なる多様な人々が記載されている。本市のスマートシティの取組では、こうした多様な人々を市民としてとらえ、誰もが生涯にわたって自分らしく安心して暮らすことができる共生社会の実現を目指す。
市民データサイエンティスト	統計学や分析手法など分析の専門知識をもたない市民であっても、分析ツールの利用や教育、市民同士の協業などの仕組みによって、データから有益な情報を得ることができること。
社会インフラ	社会や生活を支える公共的な基盤や仕組み。
社会関係資本	ソーシャルキャピタル。人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴。物的資本(Physical Capital)や人的資本(Human Capital)などと並ぶ新しい概念。(アメリカの政治学者、ロバート・パットナムの定義)
循環型社会	従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄」の「線形経済」に代わる、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した経済。
人流データ	携帯電話の位置情報などから取得した「人がいつ、どこに、何人いるのか」を把握できるデータ。防災やまちづくり、観光などの様々な分野における地域課題解決への活用が期待されている。
スーパージンティ	2018年に内閣府が打ち出したスマートシティの一類型。住民が参画し、住民目線で、2030年頃の実現する未来社会を先行実現することを目指す構想。国家戦略特別区域法に基づき、①生活全般にまたがる複数分野の先端的サービスの提供、②複数分野間でのデータ連携、③大胆な規制改革、を主なポイントとしている。



用語	解説
スマートシティ	ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)の高度化により、都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域であり、Society 5.0の先行的な実現の場。
3D製造技術	3次元(3D)のデータをもとにコンピュータで薄い断面の形状を計算し、この計算結果をもとに材料を積層して3次元の造形物を得る技術。
Society5.0(ソサエティ5.0)	サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)。狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されたもの。
ソリューション	課題を解決することや、そのために提供されるシステム。
第4次産業革命	第4次産業革命とは、18世紀末以降の水力や蒸気機関による工場の機械化である第1次産業革命、20世紀初頭の分業に基づく電力を用いた大量生産である第2次産業革命、1970年代初頭からの電子工学や情報技術を用いた一層のオートメーション化である第3次産業革命に続くもので、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)、ビッグデータを用いた技術革新のこと。
超高齢化/少子高齢化	人口に占める高齢者の割合が増加する「高齢化」と、出生率の低下により若年者人口が減少する「少子化」が同時に進行する状態を「少子高齢化」という。また、高齢化率(総人口に占める65歳以上人口の割合)が一段と高い状態(3割程度)を「超高齢化」という。本市の高齢化率の状況(令和3年9月現在約30.4%)
データのクレンジング	データを分析したり活用したりするために、データベースなどに保存されているデータの中から、重複や誤記、表記の揺れなどを探し出し、削除や修正、正規化などを行ってデータの品質を高めること。
データ連携基盤	複数のシステムに蓄積されたデータをつないで、各システム等で利用できるようにするための仕組み。これにより1対1で結合されていたシステム・サービスの壁を越えて、様々なデータを様々なシステム・サービスで利活用することが可能になる。なお、求められる機能は大きくは①相互運用(つながる)、②データ流通(ながれる)、③拡張容易(つづけられる)。
テクノロジー	第4次産業革命やSociety5.0と呼ばれる社会的な変化がデジタル技術を中心に起こっていることから、本構想においては、テクノロジーとして「デジタル技術」を中心に取扱う。
デジタルガバメント	デジタル技術の徹底活用と、官民協働を軸として、全体最適を妨げる行政機関の縦割りや、国と地方、官と民という枠を超えて行政サービスを見直すことにより、行政の在り方そのものを変革していくこと。
デジタル社会	デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会。
デジタル庁	2021年9月1日に内閣府に発足。デジタル社会形成の司令塔として、未来志向のDX(デジタル・トランスフォーメーション)を大胆に推進し、デジタル時代の官民のインフラを今後5年で一気に作り上げることを目指し、デジタル社会の形成に関する施策を迅速かつ重点的に推進する。



用語	解説
デジタルデバイド	インターネット等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間にもたらされる格差。
デジタル・トランスフォーメーション(DX)	データとデジタル技術を活用して、組織や仕組み等を抜本的に変革するとともに、ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変革させること。
テレワーク	ICT（情報通信技術）を利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方。主な形態として、在宅勤務、モバイルワーク、施設利用型勤務などがある。
電子黒板	パソコンの画面に表示した資料や写真などを投影するディスプレイモニター、もしくはプロジェクターのこと。
note(ノート)	クリエイターが文章や画像、音声、動画を投稿して、ユーザー(利用者)がそのコンテンツを楽しんで応援できるメディアプラットフォーム。
パイロット	試験的に行うもの、先行するもの。パイロット運用を行うことによって、導入についてのメリットを確認することができ、その後の本格実装に繋がる。
ハッカソン	「ハック(プログラムの改良)」と「マラソン」を組み合わせた造語で、ソフトウェア開発に関わる人々が集まって、集中的にプログラムやサービスの開発を行うイベント。
BPR(ビー・ピー・アール)	Business Process Re-engineeringの略称。現在の業務内容やフロー、組織の構造などを根本的に見直し、再設計すること。
ビッグデータ	デジタル化の更なる進展やネットワークの高度化、またスマートフォンやセンサー等IoT関連機器の小型化・低コスト化によるIoTの進展により、スマートフォン等を通じた位置情報や行動履歴、インターネットやテレビでの視聴・消費行動等に関する情報、また小型化したセンサー等から得られる膨大なデータ。
Fab Citizen (ファブ・シティズン)	3Dプリンターやレーザーカッター等のデジタル機器の工作ツールを備えた地域工房において、気軽にテクノロジーを活用し、自身や地域の課題を解決ができる市民のこと。
分野間連携	分野や組織の垣根を超えてデータを活用することで、地域の課題解決につながる高度なサービスの提供を可能にすること。
マルチステークホルダー	地域の課題解決の鍵を握る3者以上の関係者(市民、企業、大学、行政など)。
リーディングプロジェクト	本構想に基づくスマートシティの取組全体の核となり、「共創を生み出す基盤整備」を推進する先導的な役割を果たすプロジェクト(実証事業等)のこと。
レジリエント(レジリエンス)	何らかのリスクや危機を乗り越える力、強靱性のこと。①致命傷を受けない(致命傷回避)、②被害を最小化する(被害最小化)、③すぐに回復する(回復迅速性)ことが求められる。
ロードプライシング	特定の道路や地域、時間帯における自動車利用者に対して課金することにより、自動車利用の合理化や交通行動の転換を促し、自動車交通量の抑制を図る取組。
ワイズスペンディング	政策効果が乏しい歳出を徹底して削減し、政策効果の高い歳出に転換すること。